

提案力の強さが最大の武器 IBM iユーザーに新しい電子帳票の 世界を届けたい

堀 洋之氏

日鉄日立システムエンジニアリング株式会社
取締役
産業・流通ソリューション第一事業部長



日鉄日立システムエンジニアリングは2011年10月中旬、Webベースの統合帳票基盤「PaplesWeb（パピレスウェブ）」を新たにIBM iに対応させた。オフィスのペーパーレス化が叫ばれて久しい中、あえて新市場、それもIBM iユーザーをターゲットにした理由はどこにあるのだろうか。同社取締役 産業・流通ソリューション第一事業部長 堀洋之氏に聞く。

photos：加納ざつき

“自主独立”の精神で 時代のニーズに合ったソリューションを

i Magazine（以下、i Mag） まずは日鉄日立システムエンジニアリング（以下、NHS）という会社の概要について教えてください。

堀 新日本製鐵と日立製作所のジョイントベンチャーとして1988年に設立されました。当時はITという言葉は今ほど一般的ではありませんでしたが、システムエンジニアリングの業界は非常に将来有望であったため、新日鉄の持つコンピュータユーザーとしての利用技術と、世界を代表するコンピュータメーカーである日立の情報通信技術を活用し、お客様の新たなニーズに応えていきたいという理念の下にスタートしました。

ご存じの通り、80年代後半はまだメインフレームやオフコンが中心の時代でした。したがって当社も「ハードが8割、ソフトが2割」の比率でビジネスをスタートしましたが、次第に世の中の流れがダウンサイジング、オープン化へと傾き、それに合わせて当社もハードからソフトへと事業の軸足を移していきました。今では創業時とは逆に「ソフトが8割、ハードが2割」になっています。

現在は、コンサルティングからシステム設計・開発・運用保守に至るまでをワンストップで提供するソリューションプロバイダーとして、製造・流通・金融などさまざまな業界のお客様

に、多様なサービスを展開しています。**i Mag** ソリューション事業のほかにもPaplesWebのようなパッケージソフトを手がけておられますね。

堀 現在、当社の株式は51%を新日鉄ソリューションズが、49%を日立製作所が保有していますが、基本的には「自主独立」の精神でビジネスを展開しています。親会社に依存するのではなく、自らの足で地歩を固めるには独自の武器が必要だと創業当初から実感していました。1992年に登場した帳票ソリューションPaplesシリーズはその先駆けとなる製品です。そして現在のニーズに合わせてより使いやすくしたのが、PaplesWebというわけです。

i Mag PaplesWeb登場の背景について教えてください。

堀 もともとPaplesは、新日鉄のある

製鉄所から「ホストコンピュータ上の帳票データをクライアントマシンから使えるようにしたい」というお問い合わせをいただいたことから生まれました。このエンジニアリング経験をそのままパッケージとして切り出し、まずはグループ内で横展開してみたところ非常に好評だったので、外部のお客様にも提供させていただくことにしたのです。お客様のお話を伺いアイデアを出す「提案力」こそがNHSの最大の武器であり、自主独立を支える原動力でもあります。

i Mag 最初はメインフレームからのスタートだったわけですね。

堀 そうです。ですが世の中の主流がオープン系になるに従って、どんなシステム上にある帳票データでも取り込めるようにPaplesも進化しました。現在のPaplesWebはWindowsサーバー上で動作しますが、上位システムはメインフレームからオープンシステムま

で、アプリケーションも、スクラッチ開発からSAP ERPやOracle EBSなど各種ERP製品との連携が可能です。Webベースのインターフェースも非常に使いやすいとご好評をいただいております。

i Mag Paplesという製品名の由来は何ですか。

堀 古代エジプトの紙「パピルス」と「ペーパーレス」をかけ合わせたものです。日本企業の帳票は、罫線・矩形・文字/用紙サイズなどを駆使した複雑なレイアウトが特徴で、これは日本独自の文化と言われています。その独特の文化を支える帳票ソリューションの市場規模は現在約300億円で、この不況にもかかわらず縮小するどころかむしろ伸びています。一方で、世の中は確実にペーパーレスの時代に向かっていて。帳票の作成・出力から保存・破棄に至るまでのライフサイクル全体をデジタルデータで管理し、必要



な機能をオールインワンで提供できるPaplesWebのような製品が求められるのは必然だったのではないのでしょうか。

i Mag 電子帳票のニーズが高まっているというわけですね。

堀 セキュリティやコンプライアンスの面からも、電子帳票は注目される傾向にあります。例えば受発注データをつなげるEDIなどでも、受発注のやり取りを記録保存しなくてはならない。紙に出力して保存するよりも、PaplesWeb上で作成・出力・保存した方がずっとセキュアで確実です。

IBM i市場に 新たに参入したその理由

i Mag PaplesWebが敢えて今、IBM iに対応した理由を教えてください。

堀 基幹システムをIBM iで運用されているお客様は数多くおられます。帳票データもそうですが、基幹システムはそう簡単には捨てられないんですね。特に、IBM iはお客様のいろいろな使い勝手を考慮した作りになっているという点も大きい。こんなにたくさんお客様がいるなら、我々としてもサポートしないわけにはいかないという結論に達しました。

実はIBM i案件については10社ほどご相談をいただいたことがあります。お客様ごとに個別にスプールデータを取り込んで対応してきましたが、これだけ需要があるなら、パッケージ化すればもっと多くのお客様のお役に立てるという手応えを感じていました。

i Mag 帳票データはそれぞれかなりクセがあると言われます。IBM iに新たに対応するにはかなり大変だったと思われています。

堀 確かに帳票データは罫線や文字コードなどプラットフォームによってそれぞれクセがあり、レイアウト通りに出力するのは非常に難しい。我々の技術だけでは対応が厳しいと感じていた時、UT/400ファミリーを提供するアイエステクノポートの存在を知り、協力をお願いしました。早々に協業の話がまとまり、PaplesWebは同社からエンジンのOEM供給を受けることになりました。アイエステクノポートさんは他社にもOEM提供されていますが、今回はPaplesWeb用にUT/400をベースとした専用のデータ生成機能の開発をお願いしました。

i Mag 自社技術や親会社に頼るだけでなく、他社とも積極的に提携して帳票市場を活性化していく方針ということですね。

堀 他社との提携という点では、大手事務機器メーカーとのソリューション協業もあります。同社の複合機とPaplesWebを連携させ、複合機の操作パネルからPCなしで帳票の直接印刷を可能にするというものです。今の時代、ソリューションが重要であるというのはどの企業にも共通の認識で、やはりハードだけではもう売れない時代になっていることを実感します。

i Mag 最後にIBM iユーザーに対してメッセージをお願いできますか。

堀 帳票に関する悩みはお客様によってさまざまですが、当社には300社以上の帳票ソリューションを手がけた実績があり、そのノウハウを蓄積しています。まずはぜひご相談ください。📞

[text：五味明子]